

入選 [MR誕生 100 周年記念論文コンクール『私が目指すMR』]

「医療者のパートナーとなる MR を目指して」

千坂英夫（中外製薬株式会社 学術教育・研修部自立育成グループ）

私が考えるこれからの目指すべき MR 像は、常に患者さんのことを考えた行動をすることで、医療者に信頼されパートナー（チーム医療の一員）となる MR です。

私は、2011 年 10 月から若手 MR の育成を担当する研修の仕事に携わっています。その立場として、常に患者さんのことを考えた行動をし、医療者に信頼されてパートナーになる MR を多く育成したいと考えています。この MR 像を目指す理由を、自身の MR 経験とそこから学んだことを交え以下に述べます。

私は今から 10 年程前に MR になりました。MR になったばかりの頃は、個々の医師のニーズが解らずに、一方的な自社製品のディテールをしていました。その為、多くの先生方から認められることはありませんでした。その 2 年後に、社内で腎臓領域専門の MR が組織され、私は病院の腎臓内科や透析クリニックを専門に担当する MR になりました。

この腎専門 MR の経験が、私の目指すべき MR 像の考えの基盤になっています。腎専門 MR となり、透析施設へ頻回に訪問し、医師や看護師、臨床工学技士と多く話をする内に、医療者が日々患者さんと向き合い、考え・悩んでいることを目の当たりにしました。

人工透析は基本的に週 3 回行います。医療者はその度に、通院される患者さんと家族の様に温かく接し、辛く苦しい透析医療を続ける患者さんの不満を受け止め、そしていつかは訪れる患者さんの死にも直面しています。その様な、患者さんにできる最善の治療やケアは何かを考え・悩みながら、患者さんに尽くしている医療者の傍らで、Dr ニーズも解らずに一方的な自社製品のディテールをしていた、今までの自身の活動を深く反省しました。

その後は、社内の学術や倫理の研修を真剣に受け、文献や学会報告から最新の専門知識を習得する努力をする様になりました。さらに、透析患者さんの臨床検査値や投薬データをグラフにして治療経過が見える化し、個々の症例ベースで治療の話し込みを医療者とする様になりました。

こうした患者さんのことを考えた治療提案ができる様になり、少しずつ医療者からの信頼を獲得しました。

そうした中、大規模地震等の災害対策として災害時透析医療ネットワーク（医療連携）構築の動きが、担当先を含む二次医療圏の先生方の間でありました。その時、担当の先生からネットワーク構築や連絡訓練等の災害対策のアイデアを求められ、それに応えていきました。当時社内には、透析施設の災害対策の資材や、他のエリアの災害対策ネットワークや連絡訓練の事例データがあり、それを紹介することから始めました。

その後も、インターネットで調べ、透析施設の災害対策で著名な先生の本を読み勉強し、社内で上司・同僚と知恵を出し合う等の準備をした上で、地域の先生方が開く災害対策定期会議に参加して、ネットワーク機能の改善策や連絡訓練の工夫について、アイデアを出すなどのサポートを担当交代するまでの 5 年以上に渡り継続しました。この活動は、十分な備えなく大規模災害が

起これば、多くの透析患者さんが大変な事態になるので、自分にできることがあれば少しでも貢献したいという想いで一生懸命取り組みました。この想いは、社内の上司や同僚も同じで、患者さんに貢献し、医療者のパートナーになるという想いで共に取り組みました。

この活動を始めて2年後には、本活動に関係する先生方が感謝と信頼の言葉を掛けて下さる様になり、今でも忘れられない次の言葉をいただきました。災害時透析医療ネットワークの中心で取り組んでいらっしゃった先生の施設で忘年会があり、その忘年会の場で先生は私に、「今ここに複数のメーカーのMRがいるけれども、あなたのように自社の製品に何の足しにもならない活動を一生懸命やってくれる人はいない。私はあなたを素晴らしいと思うし、信頼している。」という言葉をそっと掛けて下さいました。さらに異動する最後の頃には、担当先以外の先生からも信頼される存在になることもできました。

この経験は、患者さんに貢献したいという熱い想いで行動すれば、医療者から信頼され、パートナーになれるということを学ぶ良い機会になりました。さらに医療者のパートナーになることで、MRとしての喜びや誇り、やりがい強く持てたこと、結果として社内平均以上の営業成績も残せたことから、このことを目指すのは間違っていないと思います。

今後は、若手MRの育成に携わる身として自身の経験を活かし、高い倫理観や専門知識を持ち、症例ベースでの治療提案や医療連携サポートができるMR、そして何よりも、常に患者さんのことを考えた行動をすることで、医療者から信頼されパートナーとなるMRを多く育成します。

二次医療圏：

地域の実情に応じた医療を提供する体制を確保するために、都道府県が設定する地域単位で、複数の市町村において健康増進・疾病予防から入院治療まで一般的な保険医療を提供する単位のこと。